

概要版【生徒指導】

メディアに関する児童の自己指導能力の獲得を支える生徒指導の充実 ～生徒指導の実践上の視点を重視した学級経営と授業実践を通して～

令和4年度 前橋特別研修研究員
前橋市立桃川小学校 加藤 織乃

研究のねらい

児童のメディアに関する自己指導能力の獲得を目指すため、生徒指導の実践上の視点を重視した学級経営と授業実践が有効であるか実践を通して明らかにする。

※この研究での「メディア」とは、児童が日頃家庭でよく使用する端末・機器を指す(テレビ・スマートフォン・ゲーム機・パソコン・タブレット等)

【自己指導能力の獲得を支える生徒指導において、留意する実践上の視点】 (「生徒指導提要」文部科学省,R4.12)

視点① 自己存在感の感受

視点② 共感的な人間関係の育成

視点③ 自己決定の場の提供

視点④ 安全・安心な風土の醸成

【児童の実態】

- ・様々なメディアに触れる機会が多く、児童にとってメディアは身近な存在になっている。
- ・長時間の利用により生活リズムを崩したり、SNSでのトラブルが発生したりしている。

【指導上の課題】

- ・メディアでのトラブルが起きてから指導するような対応に留まっている。
- ・抑制的な情報モラル教育ではICTの活用スキルや情報モラルは育たない。

目指す
児童の姿

向上心を高め、生活リズムを考え、メディアとの関わりを見直し、
自分自身で生活を改善しようとしている児童



自分でゲームの時間を
コントロールできたぞ！



手立て2

年間を通じメディアに関して児童に意図的に自己決定の場を提供する授業実践

視点③ 自己決定の場の提供

3学期 学活「メディアチェック」

2学期 学活「私の新メディア宣言」

2学期 道徳「カスミと携帯電話」

2学期 学活「メディアチェック」

夏季休業【メディア宣言の実施】

1学期 学活「私のメディア宣言」

1学期 総合「メディアをかしこく上手に使おう」

自己指導能力

ついついゲームを
やり過ぎちゃう…。



手立て1 自己存在感が感じられ、共感的な人間関係が育成される学級経営

視点① 自己存在感の感受

視点② 共感的な人間関係の育成

視点④ 安全・安心な風土の醸成

ありのままにいられる受容的・共感的な雰囲気づくり

児童の個性が発揮される会社活動の場の提供

特技や長所を生かせる場の提供

一人に一役、達成感や有用感を味わえる当番活動

コミュニケーション豊かな学級づくり

教師と児童間の交換日記・二者面談

話し合いで学び合う場の設定

児童による学級レクの場の提供

肥料

手立て1 自己存在感が感じられ、共感的な人間関係が育成される学級経営

ありのままにいられる受容的・共感的な雰囲気づくり



特技披露大会



会社活動（魚会社の様子）

コミュニケーション豊かな学級づくり



児童による学級レク



話し合いで学び合う場の設定

個性を発揮して認められる経験



得意なことが認められてうれしいな

6の1は好きですか。
7月・11月実施アンケート結果



88%が好意的

個性豊かで
おもしろい
クラス

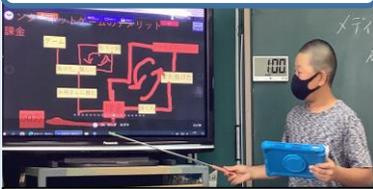


個性を発揮し、友達から認めてもらった経験を重ねたことで、自分をよりよくしたいという向上心が芽生えた

手立て2 年間を通じメディアに関して児童に意図的に自己決定の場を提供する授業実践

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	総合「メディアをかしこく上手に使おう」										
			【メディア宣言実施期間】								
					道徳「カスミと携帯電話」						
			学活「メディアチェック」		学活「メディアチェック」						学活「メディアチェック」
			学活「私のメディア宣言」								
							学活「私の新メディア宣言」				

5～7月
総合「メディアをかしこく上手に使おう」



自分がよく使うメディアについて、特性や上手に活用していく方法を調べたり考えたりして発表

7月 学活「私のメディア宣言」
11月「私の新メディア宣言」



これからメディアとどう関わっていくのか、自分の意思を「メディア宣言」として表明

9月 道徳「カスミと携帯電話」
（節度・節制）



「節度・節制」について考えることで、自身のメディアとの関わりを振り返る

最近、メディアを使う時間をコントロールできてきたな



生活を振り返り、改善策について意思決定して実行する中で、継続的に自分の生活をよりよくしようとする姿が見られた

成果

- 生徒指導の実践上の視点を重視した学級経営に努めた結果、児童が自己存在感を感じるようになり、児童の向上心が芽生え、高まった。
- メディアとの関わりについて、継続的に振り返り、自己決定する場を授業で提供したことで、児童が自らの生活の改善を図ろうとする力が身に付いてきた。

課題

- ◇今後も教師と児童との関係を良好にしていくのはもちろんのこと、保護者とも十分に連携して児童の成長を支援する必要性を強く感じた。
- ◇学校行事や他教科等との関連、児童の発達段階を考慮して、メディアに関する授業を年間指導計画に位置付けることが必要である。